

# 那須岳

## 火山防災ハンドブック

### もしもの噴火に備えて

(令和5年1月改訂版)



那須岳(茶臼岳)山頂を西側から見る

このハンドブックは、住民の皆様にも、活火山・那須岳の理解を深めていただくために作成されたものです。那須岳は現在おだやかな状態にあり、火山活動が活発化したわけではありません。



# 那須岳火山防災マップ・ハンドブック作成の目的

那須岳（茶臼岳）は1963年の小爆発を最後に噴火は起きておらず、現在はおだやかな状態が続いています。しかし那須岳は活火山であり、いつかまた必ず噴火をされると考えられています。

**火山噴火は大きな災害を起こすような自然現象ですが、噴火の前には様々な前兆現象も起こります。したがって、大きな災害が発生する前に様々な対策を立てることは十分可能です。重要なのは、住民の皆さんが那須岳について理解を深め、いざという時に落ち着いて行動できることです。**

この防災マップとハンドブックでは、那須岳の火山活動の特徴を紹介するとともに、噴火の危険が予想される範囲を示しています。那須岳や火山活動について多くの方に知っていただき、防災に役立てることを目的として作成いたしました。

## 那須岳はみんなのいこいの場

現在の那須岳はたいへんおだやかです。



紅葉と山頂の溶岩との  
あざやかなコントラスト



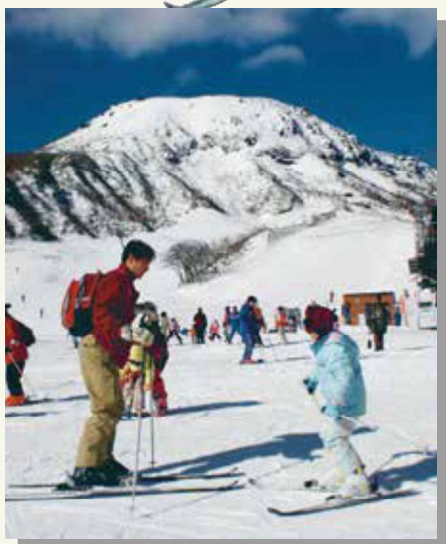
八幡のツツジ園地



那須のいたずら九尾狐  
©2013きゅうーびー-21388

那須岳は、日頃から様々な自然の恵みを与えてくれます。壮大なながめ、登山やスキー、温泉などを楽しむことができます。

夏は多くの登山客が那須岳山頂まで登山を楽しみます。



那須岳をながめながらの楽しいスキー



山麓の温泉



観光名所（殺生石）



壮大な那須岳の山容

# 那須火山の生い立ち

那須火山は今からおよそ50万年前頃から形成され始め、甲子旭岳、三本槍岳、朝日岳、南月山など、時代とともに活動の場所や噴火のしかたを変化させてきました。これらの火山を合わせて、那須火山群と総称されます。約1万6千年前からは、現在の那須岳（茶臼岳）が活動するようになりました。

南月山一帯の山体は、約20万～10万年前に形成されたようです。

那須岳（茶臼岳）の形成は、那須火山群の中で最も新しく、約1万6千年前以降と見られています。

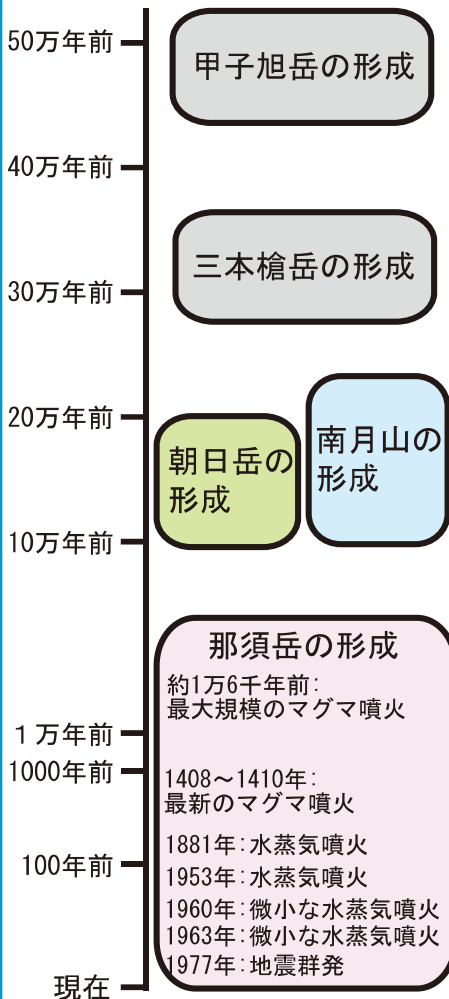
朝日岳の山体は、南月山と同じく、約20万～10万年前に形成されたようです。

三本槍岳は、約30万年前頃に形成されたと見られます。その北部の甲子旭岳は、およそ50万年前頃に形成されたようです。



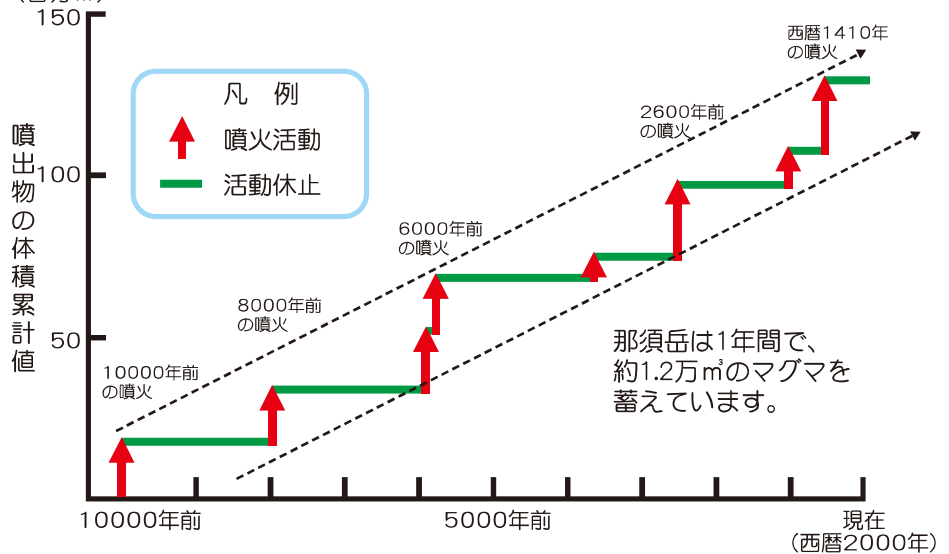
## 那須火山群の形成時期

(各火山の形成)

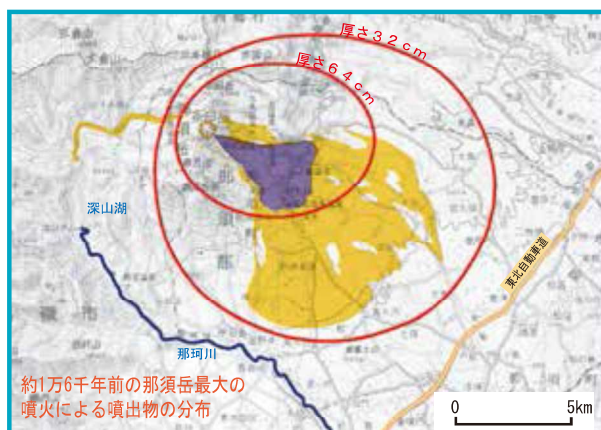


資料：  
「那須火山地質図」(地質調査所)  
「日本活火山総覧」(気象庁)

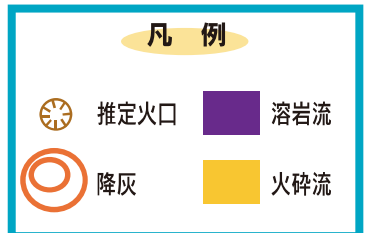
(百万m<sup>3</sup>) 那須岳（茶臼岳）の過去1万年の噴火活動（階段ダイヤグラム）



過去1万年間に、那須岳はマグマを噴出する大規模な噴火活動の後に、マグマを蓄える活動休止に入り、十分に蓄えられると再び噴火活動するという経過を繰り返してきました。こうした数千年に1回程度の大規模なマグマ噴火活動の間に、小規模なマグマ噴火や水蒸気噴火を起こす活動も起こっています。



約1万6千年前の那須岳最大の噴火による噴出物の分布



約1万6千年前には那須岳最大の噴火が発生しました。このときの噴火では、火砕流や降灰が広い範囲に到達しました。



# 那須岳の1408～1410年の噴火

那須岳（茶臼岳）では1408～1410年（応永年間）にマグマを放出する本格的な噴火が発生しました。7頁に示しているマグマ噴火の危険区域予測図は、この時のマグマ噴火と同じ規模を想定しています。



①水蒸気噴火（1408年）

那須岳の1408～1410年の噴火は、水蒸気噴火から始まりました。この噴火では東側山麓に多量の硫黄混じりの火山灰が降りました。

那須岳（茶臼岳）山頂の北東側の登山道沿いでは、1408年に噴出した黄白色の火山灰が見られます。



②マグマ噴火に移行、溶岩ドームが出現（1410年）

やがてマグマが直接噴出するマグマ噴火に活動が移行しました。爆発的に火山灰や噴石を噴出する噴火を行いました。この噴火にともない火砕流も発生したと考えられます。

ロープウェイから先の登山道沿いのガラガラした砂や石は、この噴火による噴出物です。中には数mの巨大な岩もあります。



③溶岩ドームが崩壊（1410年）

噴火の後半には溶岩が噴出し、山頂火口を埋めて、小規模な溶岩ドームを形成しました。溶岩の一部は崩れて小規模な火砕流となり、山腹を流れ下りました。



現在の那須岳（茶臼岳）の山頂は、この噴火の最後の段階で噴出した溶岩によって形成されました。



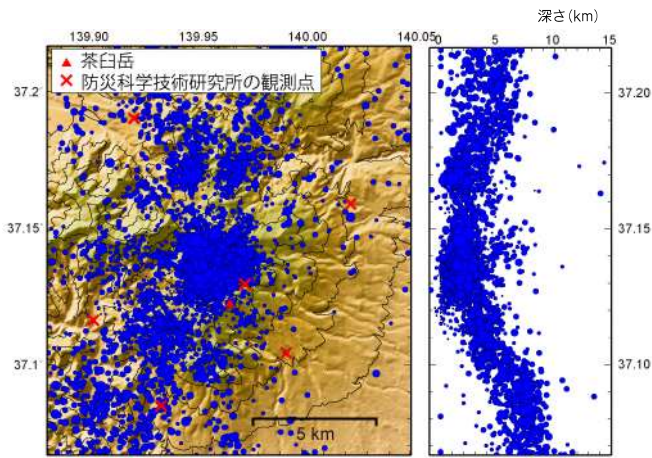
④融雪型泥流発生（1410年）

1410年には山麓で集落に大打撃を与える災害が発生しました。これは火砕流で積雪が溶かされて発生した融雪型泥流によるものと考えられます。この泥流で、約180名の人と多くの家畜が犠牲になりました。



# 那須岳の観測体制と最近の火山活動状況

那須岳（茶臼岳）では、気象庁が火山活動を24時間監視し、国立研究開発法人防災科学技術研究所も地震の連続観測を行っています。最近の那須岳の地震活動と噴気活動は図のように推移しています。

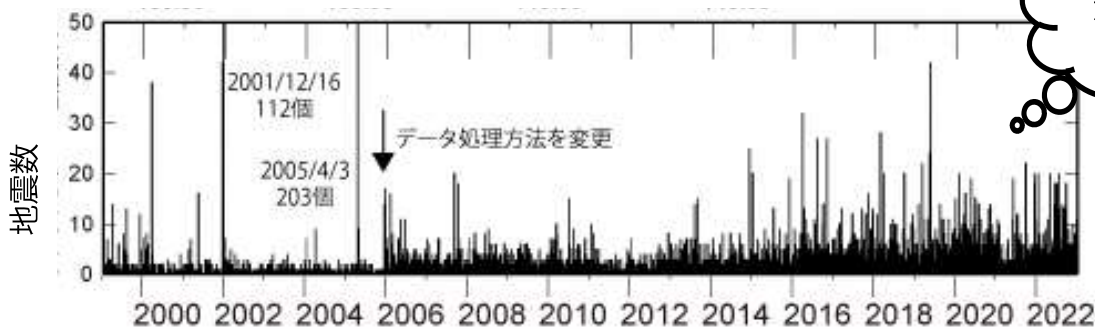


## 地震分布図 地震回数

(1999/1~2022/12)  
(防災科学技術研究所)

那須岳（茶臼山）では、北側、海面下3km以浅を中心に地震が発生しています。この地震の震源は、周辺の地震活動より浅く、那須岳の火山活動と密接に関係していると考えられます。

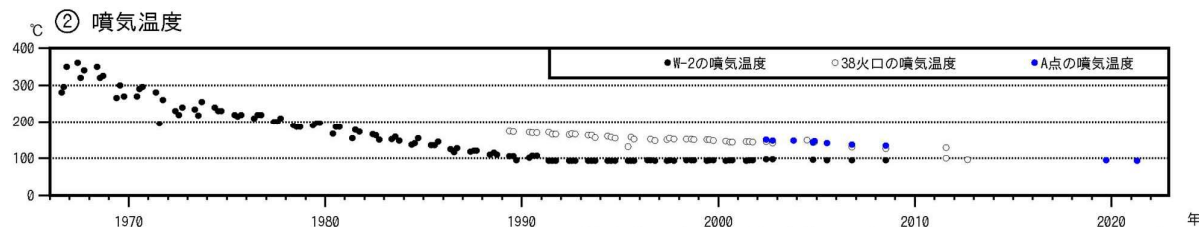
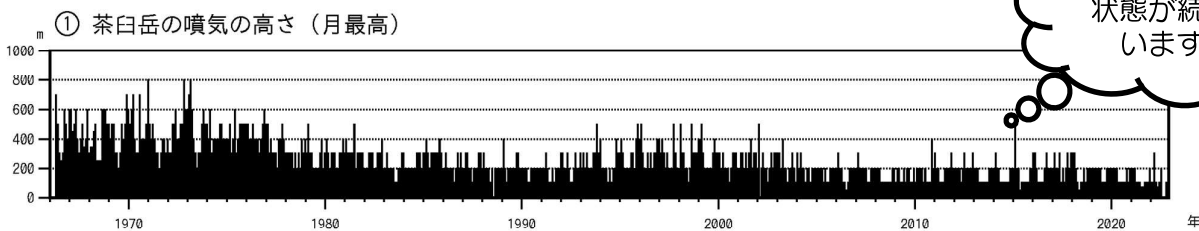
定常的な地震活動が継続しています。



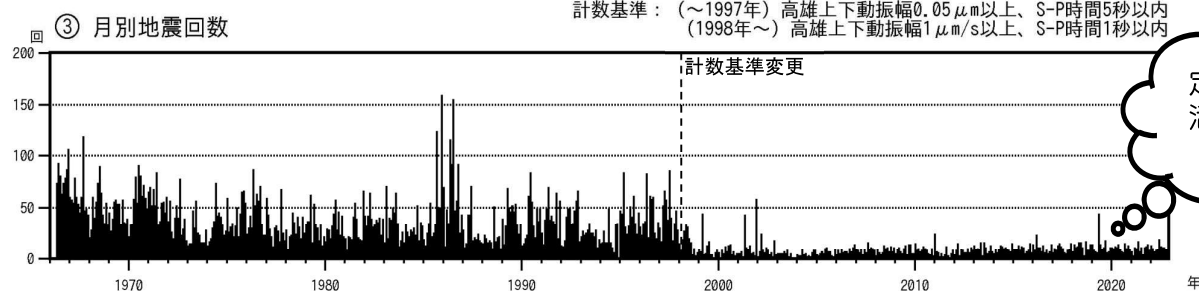
## 噴気の高さ 噴気温度 地震回数

(1966/5~2022/12) (気象庁)

最近は少ない状態が続いています。



※W-2と38火口は、那須岳（茶臼岳）西斜面噴気地帯の観測点。



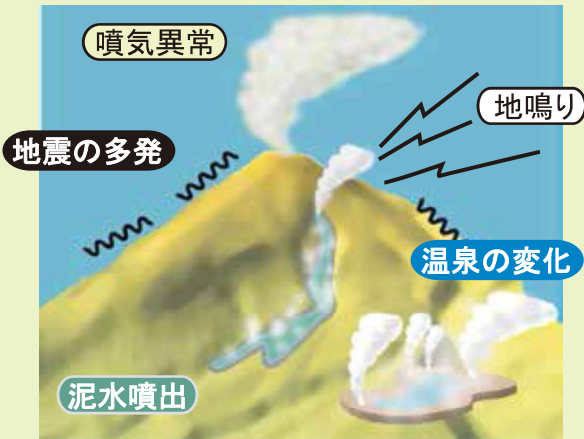
定常的な地震活動が継続しています。

# 那須岳火山活動推移の特徴

那須岳（茶臼岳）は、噴火の前に前兆現象が現れる可能性が高いと考えられています。噴火が起こる場合も、小規模な水蒸気噴火から中～大規模なマグマ噴火へと活動を変化させる傾向があります。

## 噴火の前兆現象

地下のマグマが何らかの活動をする、様々な現象が地表で発生します。



### 噴気異常

いつもより噴気の量が多かったり、普段と違うところから噴気が発生することがあります。

### 火山性地震・火山性微動

マグマの活動で地面を揺らします。身体に感じない小さな地震は、普段でも時々発生しています。

### 地鳴り（鳴動）

地鳴りは様々な原因で発生しますが、山で地震が発生した時にも地鳴りを伴うことがあります。

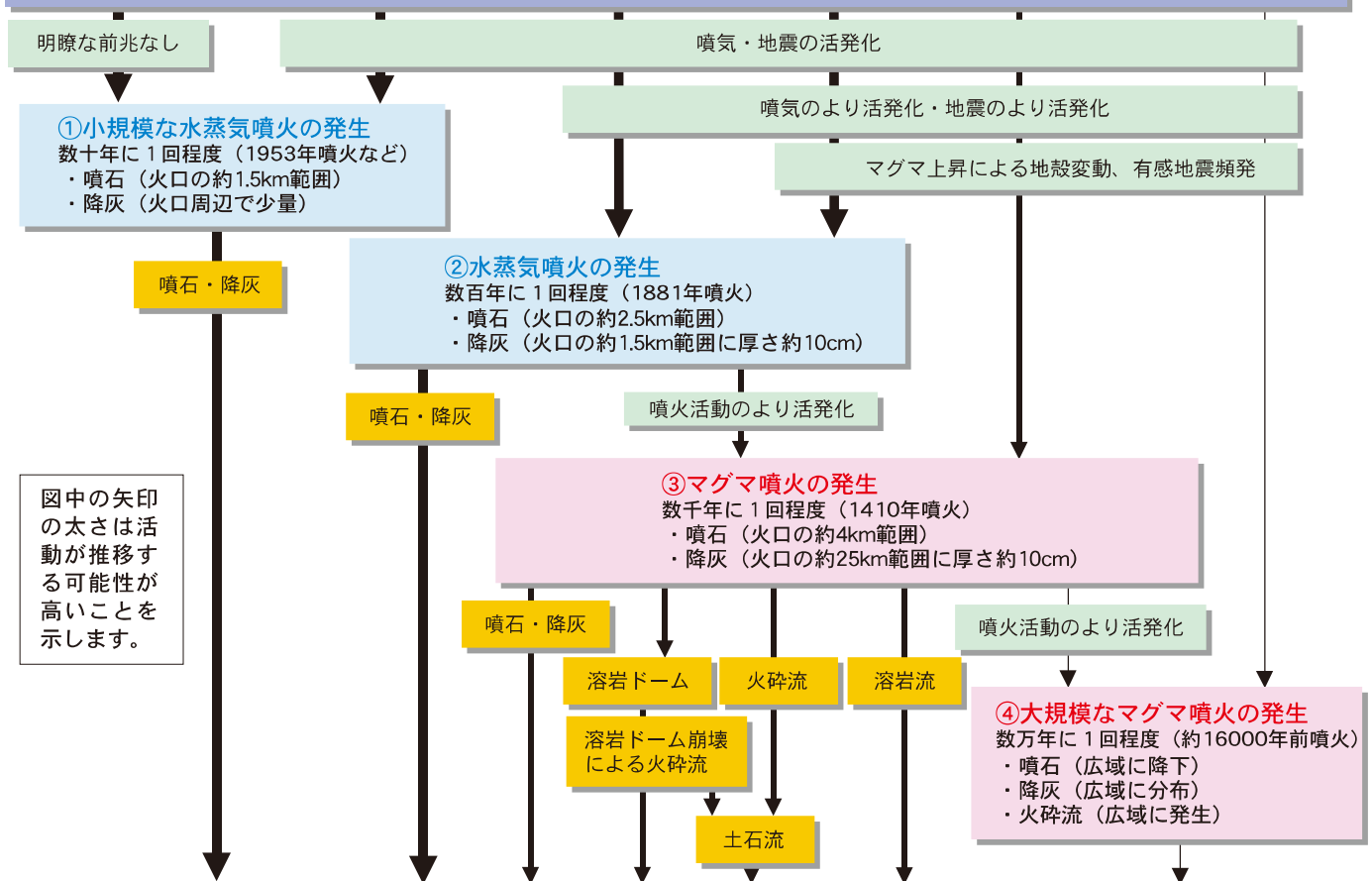
### 泥水噴出

火口や噴気孔から熱い泥水が噴き出すことがあります。

### 温泉の変化

地下の温度が変化したり、地殻変動が起きたりして、温泉の温度や量、泉質が変化することがあります。

## 火山活動が静穏



## 火山活動の静穏化

多くの場合、噴火には至らないか、または水蒸気噴火から本格的活動に至る前に、噴火活動が終息します。

那須岳（茶臼岳）の噴火活動としては、①小規模な水蒸気噴火、②水蒸気噴火、③マグマ噴火、④大規模なマグマ噴火の可能性があり、それぞれの噴火活動で発生する現象の推移が示してあります。

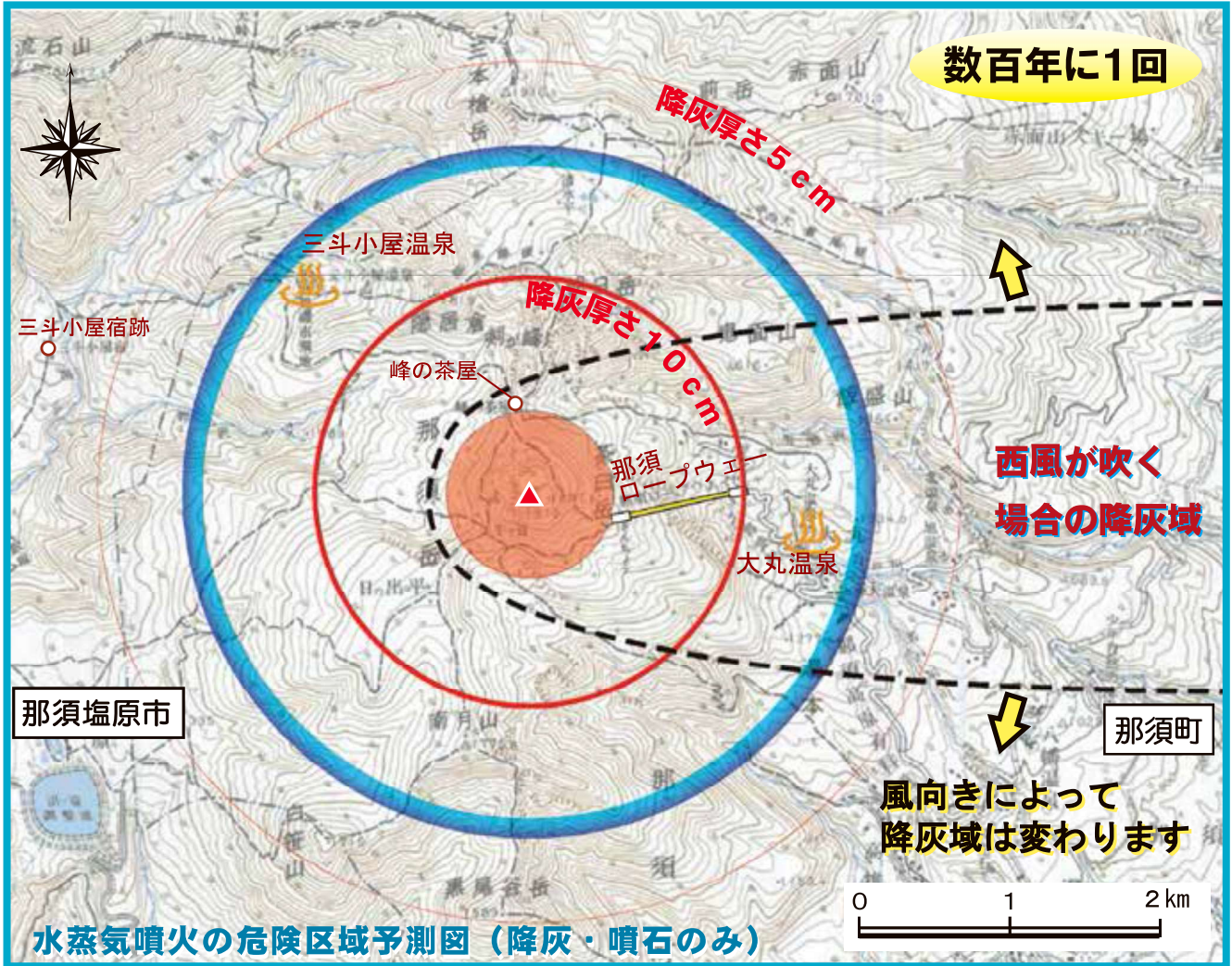
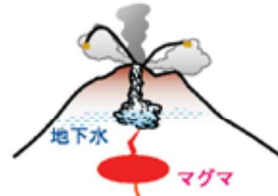


# 水蒸気噴火の影響

那須岳（茶臼岳）は、数百年に1回程度の割合で、水蒸気噴火が発生します。重大な影響は火口の近くに限られます。しかし、降灰は少量ながら広範囲に到達します。

## 水蒸気噴火

地下水が熱せられ、大量の水蒸気が急速に生成されて爆発を起こします。火口周辺の岩がくだけて、噴石や火山灰として周囲に飛び散ります。



上の予測図は、1881年に発生したやや大きめの水蒸気噴火と同じ規模を想定しています。この規模の水蒸気噴火は、数百年に1回程度起きます。

ただし、1960年代に山頂西側の噴気地帯で発生した微小な水蒸気噴火と同程度の噴火は、もう少し多く起こる可能性があります。



山頂の西～北西側には、1881年の水蒸気噴火でできた火口の跡が見られます。

## 噴石に対して

水蒸気噴火では概ね火口から2.5kmくらいまで噴石が落下することがあります。火口の近くには近づかないようにしましょう。



平成12年の有珠山の水蒸気噴火の様子(上)と、その火山灰でぬかるんだ道路の様子(下)

## 水蒸気噴火の降灰

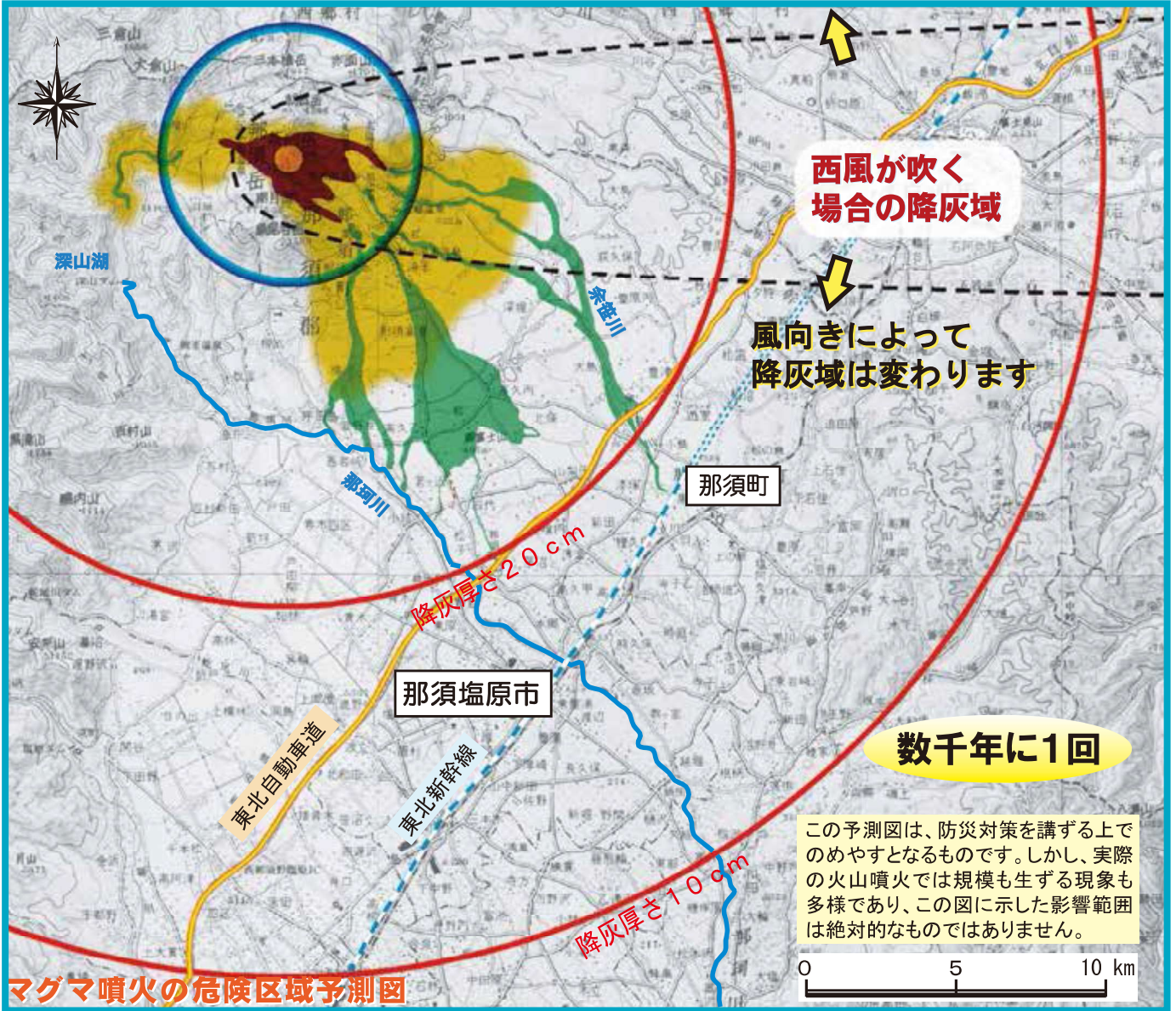
風下では火山灰がしばしば降ってきます。水蒸気噴火の火山灰は粘土状ですべりやすく、ベタベタしています。少量の火山灰は遠方にも飛来し、目・鼻・のどの疾病や交通障害の原因になります。



# 火山噴火現象のいろいろ

数千年に1回程度、マグマが直接地表に噴出する本格的噴火（マグマ噴火）が発生します。マグマ噴火では水蒸気噴火より規模が大きくなり、また山麓域までの広範囲が、長期にわたって危険になることがあります。

**マグマ噴火**  
 マグマが直接地表に噴出します。

**マグマ噴火の危険区域予測図**

この予測図は、3頁で示した1408～1410年のマグマ噴火と同程度の規模を想定して作成しています。降灰は、噴火時の風向きによって様々な方向に影響が及ぶ可能性があります。また、溶岩流・火砕流・融雪型泥流などの現象も、火口の位置や地形条件によって様々な方向に流下する可能性があるため、可能性のある全ての方向について到達範囲を予測しています。 したがって、図に示した全ての現象が一度に発生するわけではありません。

**凡例**

- 噴火発生場所  
山頂の半径500mの円内では、どこでも噴火する可能性があります。
- 降灰範囲  
破線の部分は、西風の場合の風下（東麓）の予想降灰範囲を示しています。  
赤い実線は、風下になった場合の予想降灰層厚を、全方向について示しています。
- 噴石到達範囲  
噴石が到達する範囲を示しています。
- 溶岩流到達範囲  
溶岩流が到達する範囲を全方向について示しています。
- 火砕流到達範囲（熱風を含む）  
火砕流上部の熱風（火砕サージ）が到達する範囲を示しています。
- 融雪型泥流到達範囲  
火砕流による融雪型泥流が到達する範囲を示しています。積雪期に発生が予想されます。

防災情報に注意し、噴火活動が本格化する前に、避難の準備をしておきましょう。



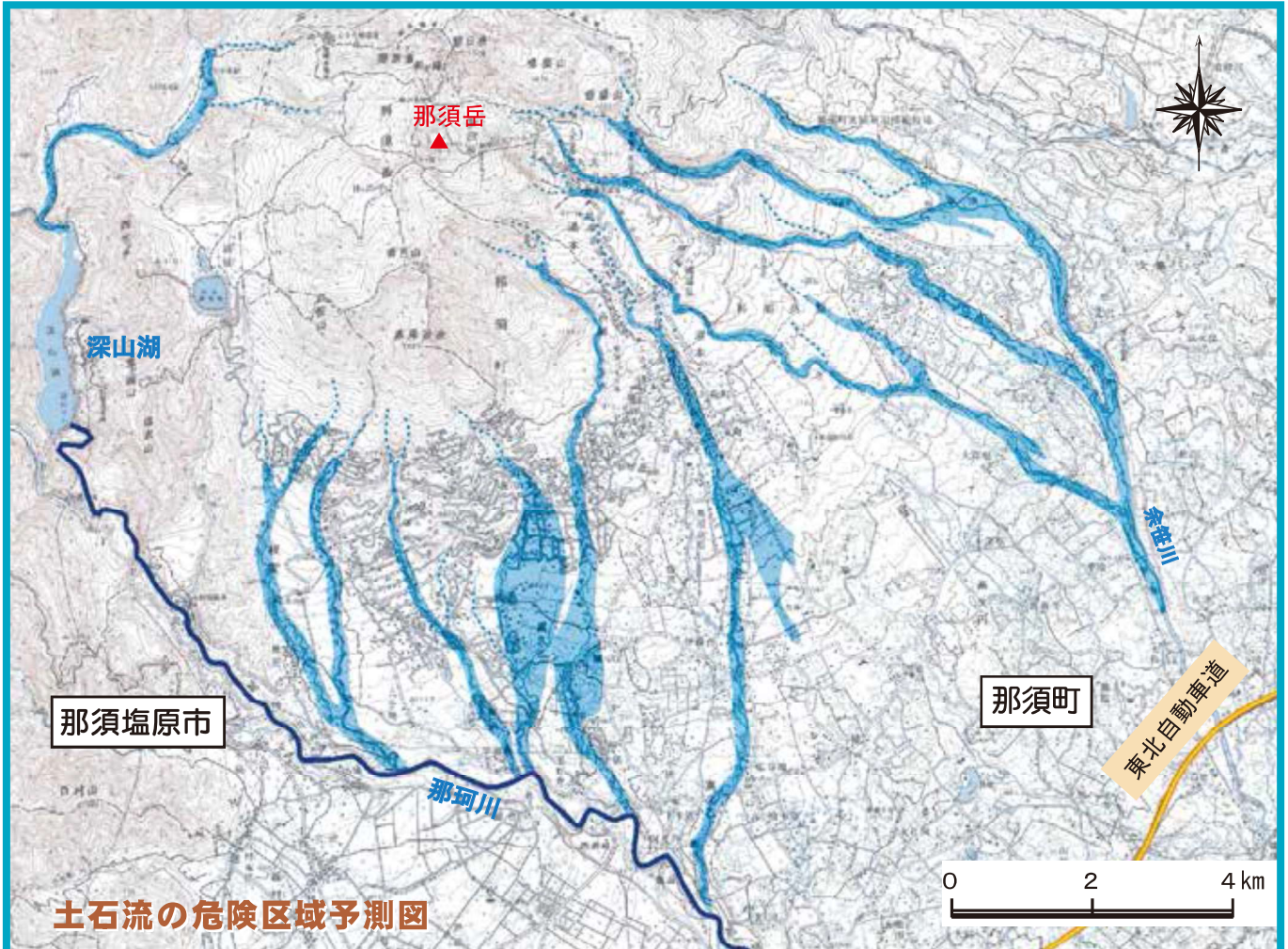
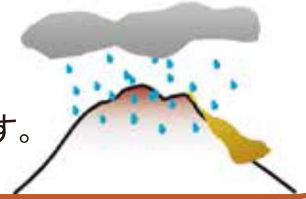


# 土石流の影響

噴火が発生すると、火山灰が積もった地域では土石流が発生しやすくなります。このような状況は、噴火が終わってもしばらく続きます。

## 土石流

降雨時に発生しやすくなります。

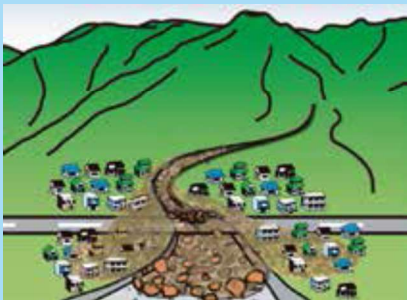


## 凡例

 土石流到達範囲

水色の部分は、マグマ噴火による火山灰が堆積した直後の、土石流の予想到達範囲を示しています。主要な河川沿いでは、小規模な水蒸気噴火の後でも、同様な範囲にはんらんする可能性があります。

土石流の先端には巨岩が集中し、破壊力が大きくなります。橋に流木がつかえたりすると、周囲に広くはんらんすることもあります。



土石流は、降雨による泥水と土砂が入り混じって沢を流れ下る現象です。噴火が発生すると周囲の植物が枯れ、また火山灰が積もった地表では土砂が動きやすくなり、少量の降雨でも土石流が発生しやすくなります。流下の途中で、大きな岩や、なぎ倒した樹木を巻き込んで破壊力が大きくなり、家押し流すこともあります。



# 火山噴火現象のいろいろ

火山噴火では、マグマの性質やその他の条件によっていろいろな現象が発生します。現象によって到達範囲や流下速度などが異なるため、避難への緊急性が高いものと、比較的低いものがあります。

## ふんせき 噴石



平成12年の有珠山噴火に伴って放出された人頭大の噴石（上）

有珠山噴火の噴石で、屋根に多数の穴が開いた建物（下）



爆発でくだけた岩石が飛来します。人の頭より大きな岩が飛んでくることもあります。落下の衝撃で死傷したり、家屋・車・道路などが被害を受けることがあります。

## かさいりゆう 火砕流



平成3年に発生した雲仙普賢岳の火砕流

火山灰や岩塊が、火山ガスと一緒に急流に流下する現象です。流下速度は時速百kmを超えることもあります。内部は高温で、数百℃以上になります。火砕流上部の熱風（火砕サージ）の部分は、多少の地形の凹凸を乗り越えて広範囲に広がることもあります。

## ゆうせつがたでいりゆう 融雪型泥流



十勝岳の大正15年の噴火で発生した融雪型泥流によりねじ曲げられた線路の様子

高温の火砕流が積雪を覆うと、雪氷を急速に溶かして泥流が発生することがあります。大量の泥水が短時間に生産され、降雨による土石流に比べてはらんの範囲も広くなりがちです。流下の途中で樹木や大きな岩を巻き込むことによって破壊力が増します。

## ようがんりゆう 溶岩流



山頂付近から山腹斜面に垂れ下がるように流下した、雲仙普賢岳の溶岩流（平成3年）

溶岩流は、高温のマグマが火口から流下する現象です。マグマの粘り気が強い場合には、溶岩ドームという盛り上がった地形を作ります。過去的那須岳の噴火でも、溶岩ドームが形成されています。流下速度はさほど速くありませんが、斜面では火砕流や落石が発生させることがあるので、溶岩流の周辺は危険です。

## こうはい 降灰

火山噴火が発生すると火山灰や火山ガスが放出され、噴煙が形成されます。噴煙は風に流され、風下では火山灰が降ってきます。

10cm以上灰が積もると、建物などに被害が出始めます。量が少なくても、道路の視界が悪くなるなどの影響が出ます。



十勝岳の昭和37年の噴火による噴煙

広範囲に降灰があると、道路などの復旧のためには大量の火山灰を除去する必要があります。除去した灰の捨て場所も、大きな問題となります。



平成12年の有珠山噴火により、火山灰におおわれた道路の様子



# 各噴火現象への対応

一口に避難と言っても、実際に生じている火山の状況によって、その対応も変わります。噴石・火砕流・融雪型泥流・土石流の発生が予測される場合には、発生前に避難をすることが重要です。溶岩流や降灰などに対しては、防災情報に注意して必要な行動をとるようにしましょう。

## 噴石・火砕流に対しては…

避難情報にしたがい、緊急避難！！

噴石や火砕流は高速なので、発生してから避難するのはほぼ不可能です。噴石や火砕流が発生しそうな状況になった場合には、危険区域予測図に示された到達範囲の外へ避難することが先決です。

ここから早く出ること！！



那須のいたずら九尾狐  
©2013きゅーびー 21388

噴石は一般の家屋の屋根などは突き破ることがあります。また、火砕流の熱風はある程度の地形の凹凸を簡単に乗り越えておそってきます。万一逃げ遅れた時は、なるべくじょうぶな建物を探して逃げ込むか、あるいは噴石を避けられる岩かげなどに避難してください。

## 融雪型泥流・土石流に対しては…

避難情報にしたがい、緊急避難！！

積雪期にマグマ噴火が発生しそうな場合には、融雪型泥流への警戒が必要です。土石流は降雨時に発生します。台風の接近や集中豪雨など大雨が予想される場合には、土石流の危険区域からの避難が必要です。

融雪型泥流が西側（三斗小屋宿跡方向）に発生すると、下流の深山湖に流入する可能性があります。しかし、深山ダムの水位を調整すれば、ダムが決壊する心配はほとんどありません。



融雪型泥流・土石流ともに、流れる速さは時速60km程度に達し、短時間に襲ってくる場合もあります。逃げ遅れた場合には、沢から離れて少しでも高い尾根へ避難して下さい。



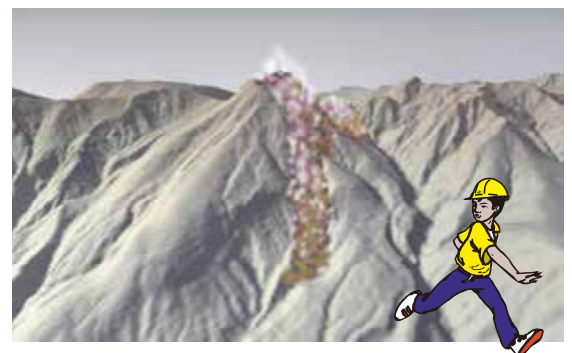
天気予報などにも注意して下さい

## 溶岩流・降灰に対しては…

防災情報などに基づき、速やかに行動

溶岩流は一般に流れる速さも遅く、徒歩で逃げることも可能です。防災情報などをよく聞き、落ち着いて到達範囲の外に避難して下さい。降灰は、直接人命に関わる可能性はほとんどありませんが、火山灰がたくさん積もった場合には、屋根の灰を除去して家屋がつぶれないような対策も必要です。

少量の降灰でも呼吸器に悪影響を及ぼすので、ぬれタオルやマスクなどを使って灰を吸い込まないようにしましょう。また、視界が悪くなるので、車の運転などには十分注意して下さい。



### 降灰による災害のめやす

1m以上	ほとんどの木造家屋が倒壊
50cm	半数以上の木造家屋が倒壊
20~30cm	多くの木造家屋に被害
10cm	家屋の施設の一部に被害
数cm	健康障害、交通機関への影響



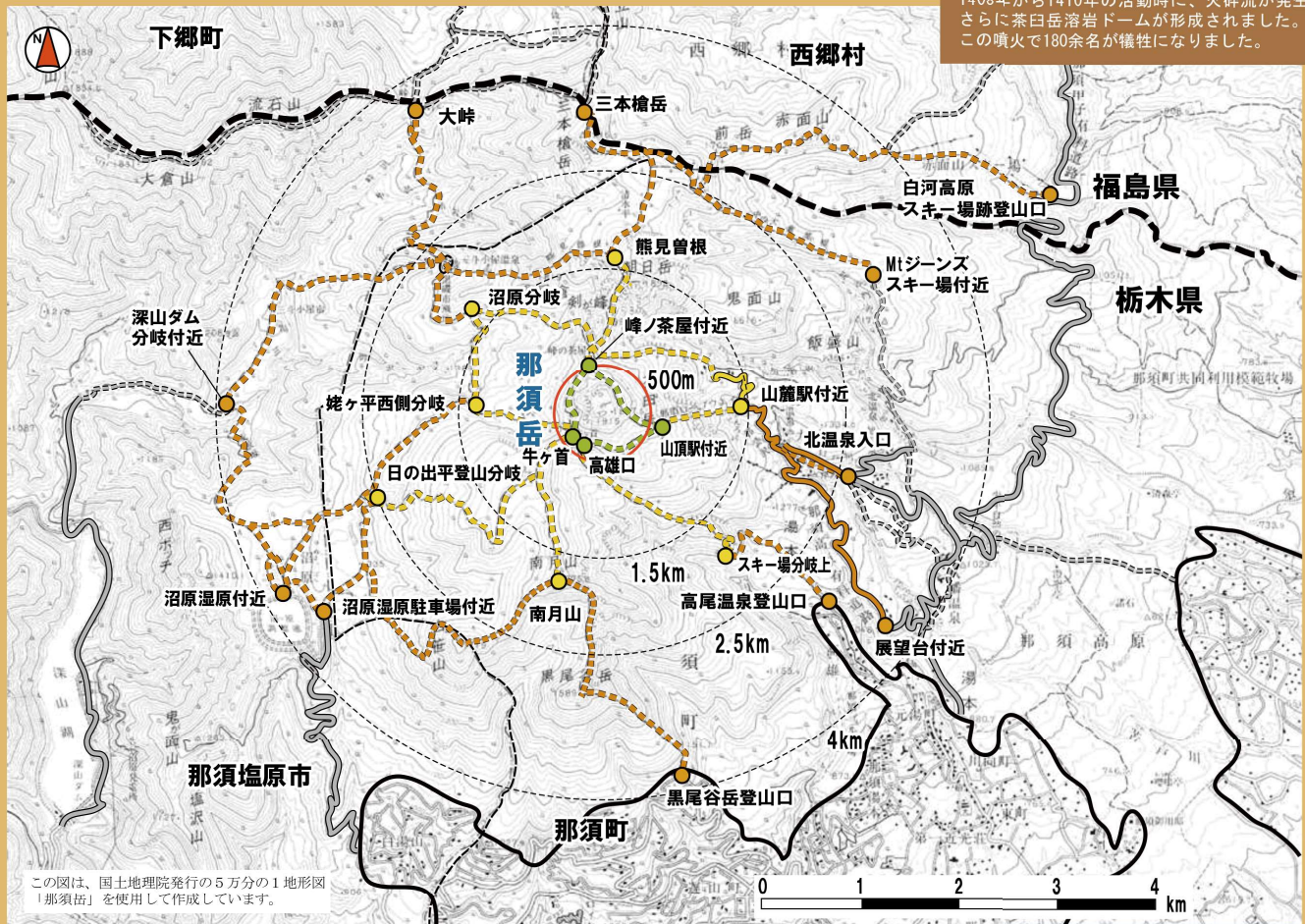
# 那須岳噴火警戒レベル(規制範囲)

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています(レベル5は「避難」、レベル4は「高齢者等避難」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」)。
- 対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報等でお伝えします。



那須岳の火山活動について  
1408年から1410年の活動時に、火砕流が発生し、さらに茶臼岳溶岩ドームが形成されました。この噴火で180余名が犠牲になりました。

## ■那須岳 噴火警戒レベルと規制範囲



この図は、国土地理院発行の5万分の1地形図「那須岳」を使用して作成しています。

- 噴火警戒レベルに応じて下記のような防災対応が必要になります。
- レベル5 (避難)：危険な居住地域からの避難等。
- レベル4 (高齢者等避難)：警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備。
- レベル3 (入山規制)：山頂から2.5km程度内の立入規制。  
県道 ———、登山道 - - - - - は通行できません。
- レベル2 (火口周辺規制)：山頂から1.5km程度内の立入規制。  
県道 ———、登山道 - - - - - は通行できません。
- レベル1 (活火山であることに留意)：状況に応じて火口内への立入規制等。  
登山道等 - - - - - は通行できません。

- 一般道路：———
- 行政區境界：- - - - -
- 主要規制地点：●●●
- 登山道：- - - - -
- 居住地域：○
- 想定火口域：○

■この図は「那須岳火山防災マップ」(那須町、那須塩原市、栃木県、平成14年3月)に基づき作成しています。

■那須岳の噴火警戒レベルは、地元自治体等と調整して作成しました。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については那須町、那須塩原市、下郷町、西郷村にお問い合わせください。

### 規制についての問い合わせ先

- 那須町 TEL：0287-72-6901(代表)
- 那須塩原市 TEL：0287-62-7150(危機管理室)
- 下郷町 TEL：0241-69-1122(代表)
- 西郷村 TEL：0248-25-1111(代表)

### 噴火警戒レベルについての問い合わせ先

- 気象庁地震火山部火山監視課 火山監視・警報センター  
TEL：03-6758-3900(内線5189) <https://www.jma.go.jp/>
- 宇都宮地方気象台 防災担当 TEL：028-635-7260  
<https://www.data.jma.go.jp/utsunomiya/>
- 福島地方気象台 防災担当 TEL：024-534-0321  
<https://www.data.jma.go.jp/fukushima/>



# 那須岳の噴火警戒レベル(一覧表)

平成21年3月31日運用開始



## 那須岳の噴火警戒レベル

種別	名称	対象範囲	噴火警戒レベル (1-7)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報(居住地域)または噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●噴火が発生し、火砕流、融雪型火山泥流(積雪期)が居住地域に到達、あるいはそのような噴火が切迫している。または大きな噴石が概ね4km程度の範囲に飛散する噴火が切迫、あるいは発生。  過去事例 1410年:ブルカノ式噴火発生、その後火砕流が約8km流下、泥流の発生
			4 (高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要。	●火砕流、融雪型火山泥流(積雪期)が居住地域まで到達するような噴火、または大きな噴石が概ね4km程度の範囲まで飛散するような噴火の発生が予想される。  過去事例 1408~1410年:水蒸気噴火が頻発
警報	噴火警報(火口周辺)または火口周辺警報	火口から居住地域近くまで  または火口周辺	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	●中規模噴火が発生し、山頂から概ね2.5km程度まで大きな噴石が飛散。  過去事例 1881年:水蒸気噴火発生  ●中規模噴火の発生が予想される。  過去事例 事例なし
			2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。	●小規模噴火が発生し、山頂から概ね1.5km程度まで大きな噴石が飛散。(ごく小規模噴火含む)  過去事例 1953年, 1960年, 1963年:水蒸気噴火発生  ●小規模噴火の発生が予想される。  過去事例 事例なし
予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●火山活動は静穏、状況により山頂火口内及び一部火口外に影響する程度の噴出の可能性あり。

注1) ここでいう「大きな噴石」とは、概ね20~30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散するものとする。

この噴火警戒レベルは、地元市町村等と調整の上で作成したものです。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、関係する各市町村にお問い合わせください。

# 避難時の心構え

噴火が発生した時、または発生しそうな状況になった時には、確かな情報に基づき、あわてずに落ち着いて行動することが大切です。また、避難の際には周囲の状況を良く確認して下さい。

## 基本的な心構え

- ①デマやうわさにまどわされないよう、市町村・警察・消防およびテレビ・ラジオを通じて伝えられる公的機関からの情報を入手するよう、こころがけましょう。
- ②市町村長から避難情報が発せられた時には、避難を優先させましょう。
- ③家族や周囲の人たちと協力しあい、あわてずに落ち着いて行動しましょう。また、周囲の人たちと情報を確認しあいましょう。



那須のいたずら九尾狐  
©2013きゅーびー 21388

避難後に知人の安否の確認をしたい時には、NTTの「災害伝言ダイヤル」

いない

171番

を利用しましょう。



## 立入・避難規制の種類

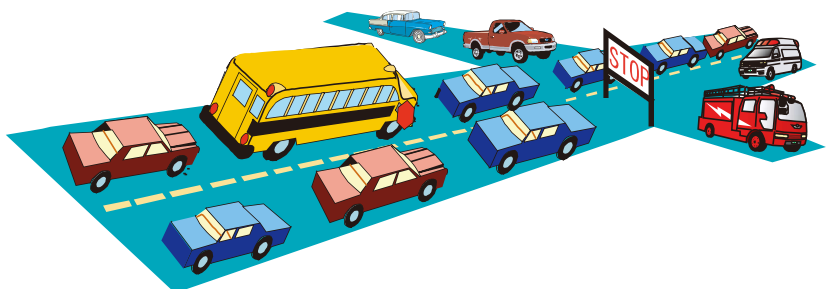
**自主避難** 火山活動が活発化した場合や、大雨の際には、できるだけ早めに避難するようこころがけましょう。

**高齢者等避難指示** 原則として市町村長から出されます。生命、身体を保護するために必要と認める地域の居住者などに対し、立ちのきを求めるものです。急を要する場合には、避難指示が出されます。

**警戒区域** 原則として市町村長が設定します。災害応急対策に従事する者を除いて、その区域への立ち入りを制限または禁止し、居住者等へはその区域からの退去を命ずるものです。違反者には、罰則が科せられます。

## 車で避難する際には…

経路によっては、救急車などの緊急車両が優先されることもあります。また、大勢の車が限られた避難路に集中するため、道路が混み合って避難に時間がかかることも予想されます。





# 噴火警戒レベルに応じた指定避難所

噴火警戒レベルごとに避難所が指定されています。

いざというときあわてないために、避難所を確認しておきましょう。

## 〔那須町〕

### 噴火警戒レベル2・3の場合

避難所名	住所	電話番号	収容地区名
高原公民館	湯本199-14	76-3764	湯本本町、大町、見晴町、旭町、元湯町、奥那須、川向町
旧那須小学校	湯本201-1	—	東町、那須高原、占勝園、西町、湯本仲町
旧室野井小学校	高久乙3371-3	—	上半俵、下半俵、蕪中、室野井、宇田島、六斗地、横沢、遅山町、ロイヤル
那須中学校	高久丙1-1	78-0520	喰木原、広谷地、守子、伊藤台、一ツ樅、ロイヤルバレー
田代友愛小学校	高久乙196-3	62-1803	大日向
那須高原小学校	高久丙1482	76-2491	池田、小深堀
旧大沢小学校	高久丙2799-6	—	大沢、大深堀、北沢、大谷
学びの森小学校	大島18-1	72-0140	大島、中原

### 噴火警戒レベル4・5の場合

避難所名	住所	電話番号	収容地区名
スポーツセンター	寺子乙2516-36	72-5959	湯本本町、大町、見晴町、旭町、東町
文化センター	寺子乙2567-10	72-6565	那須高原、占勝園、西町
旧田中小学校	寺子乙1240-1	—	元湯町、奥那須、湯本仲町、川向町
那須中央中学校	寺子丙92	72-0059	上半俵、下半俵、蕪中、室野井、宇田島、六斗地、横沢、遅山町、ロイヤル
那須高等学校	寺子乙3932-48	72-0075	喰木原、大日向、広谷地、守子、伊藤台
黒田原小学校	寺子乙3968-1	72-0004	池田、小深堀、一ツ樅、ロイヤルバレー
旧朝日小学校	豊原丙1340	—	大沢、大深堀、北沢、大谷
学びの森小学校	大島18-1	72-0140	大島、中原

※住所には「那須町大字」、電話番号には市外局番「0287」が付きまます。

※収容地区名に記載がない地区については、噴火の影響により避難の必要がない地区となりますが、噴火の状況によっては、避難が必要になる場合もあります。

## 〔那須塩原市〕

### 噴火警戒レベル3以上の場合

避難所名	住所	電話番号	収容地区名
高林公民館	箭坪347-1	68-0115	三斗小屋温泉

※住所には「那須塩原市」、電話番号には市外局番「0287」が付きまます。

# 那須岳の噴火に備えて

## 火山噴火時の避難

### 時間的余裕

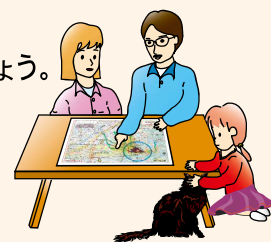
那須岳では、前兆現象や小規模な水蒸気噴火などを経て火山活動が活発化します。地震などとは異なり、大きな災害が突然やってくるわけではありません。気象庁の火山関連の情報や自治体の防災情報などに注意して、落ち着いて避難しましょう。

### 長期化

火山災害では、安全のために長期間家へ戻れないこともあります。日頃から、万が一に備えて準備をこころがけましょう。

## 日頃の準備

- ①日頃から気象庁の火山関連の情報やテレビ・ラジオからの防災情報に関心を持ちましょう。
- ②家族や近所で避難のしかたを話し合っておきましょう。
- ③日頃から非常用品をできるだけ備えておきましょう。
- ④防災訓練に参加しましょう。



## 非常用品あれこれ

### 重要なもの



貴重品（現金・通帳・保険証・カード）

### あれば便利なもの



### やや特殊なもの



その他  
(ご自由にお書き下さい)

## 情報の提供・お問い合わせなど

緊急時の連絡先 消防署: **119** 警察署: **110**

那須塩原市役所 (危機管理室)      那須町役場 (代表)  
**(0287)62-7150**      **(0287)72-6901**

宇都宮地方気象台 **(028)633-2767**

## 那須岳火山防災ハンドブック (改訂版)

平成14年3月初版発行  
平成22年3月改訂版発行  
平成26年4月改訂版発行  
令和5年1月改訂版発行

発行: 那須岳火山防災協議会  
(那須町・那須塩原市・栃木県)

編集: 那須岳火山防災マップ検討委員会  
中村洋一 (宇都宮大学名誉教授)、棚田俊收  
(国研)防災科学技術研究所、宇都宮地方  
気象台、那須町、那須塩原市、栃木県、那須地  
区消防組合、福島地方気象台、福島県、白河市、  
西郷村、下郷町

印刷: 砂川印刷株式会社

### 写真提供 上富良野町教育委員会、栃木プロジェクトプロ

このハンドブックでは、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地勢図および5万分の1地形図の複製を使用しています (承認番号平13総復、第338号)。また、鳥瞰図については、国土地理院長の承認を得て同院発行の数値地図50mメッシュ (標高) および数値地図10mメッシュ (火山標高) を使用し (承認番号 平13総使、第436号)、ソフトウェア「KASHMIR 3D」で作成しました。